

令和2年度 学校評価実施報告書

学校名（京都市立大枝中学校）

教育目標

夢を実現するための「確かな学力」

社会の一員としての「豊かな人間性」

よりよい地域・社会を創造する「つながる力」を育成する。

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し <ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な学習を促すため、「ペア学習」「グループ学習」を取り入れた授業の取組を進めてきた。話し合い活動を効果的に取り入れることで、本校が目指す資質・能力である「つながる力」の育成にも効果が出始めていたのだが、コロナ対策のため、充分な時間や回数を確保することが出来なかつたのが残念であった。また、全学年とも学習確認プログラム等において平均を超える結果を残しており、学力面でも一定の成果を残している。 大枝中学校区ブロック共通の「学びのガイドライン」をもとに、授業改善の取組を進めている。「めあて」の明示はほぼ出来ているが、「振り返り」にはその方法や内容にまだ課題がある。今年度より「授業の流れ」の明示を加えて、授業改善を図ってきた。 各種アンケートの結果分析から「家庭における学習習慣」の定着が依然として課題であることが分かる。また、毎日朝読書を行っているにもかかわらず「読書の習慣」のポイントが低いことも課題である。学習内容の設定や点検方法などの取組を工夫し、意識の改善を図りたい。 次年度も、小中で検討した「子どもたちにつけたい資質・能力」として「つながる力」の育成を主な課題として9年間を見通した取組を進めていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの質問の内容について、状況が変化しているのに合わせ、他校のものも参考にして、変えていくべきところについては変えていった方がよいのではないか。 コロナ対応が大変な中、子どもたちにとって大切な学校行事である修学旅行、体育大会、合唱コンクールなど規模を縮小したとはいえ、実施していただいたことに感謝している。 子どもたちをどのような良い姿にしていくかを視点に、学校経営を進めていって欲しい。協力できることはしたいと考えている。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年11月16日(月)	学校運営協議会
最終評価	令和3年2月22日(月)	学校運営協議会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』**重点目標**

カリキュラム・マネージメントの視点の下、確かな学力をつけるため授業改善を図る。

自分の夢の実現に向けて、家庭での自学自習が習慣化できる取組を実践する。

具体的な取組

- ①全国学力・学習状況調査や学習確認プログラム、学校評価等の調査結果から、経年変化や推移等を分析する。年間3回程度の学力分析研修会を実施し、本校の課題を明確化し、授業改善を図る。
- ②年間4回の公開授業研修会を通して、継続的に教員の授業改善に努め、学力向上に効果的な「授業づくり」を行う。(全教員が授業を公開し、教科別・学年別等形態を変えて研究協議をする。)
- ③生徒の主体的な学習を促すため、ペアワークや少人数グループによる話し合い活動を取り入れた授業を実践し、全校体制での研究を行う。
- ④「未来スタディサポート教室」を、原則全学年で毎週実施。学習に躊躇のある生徒に対して継続的に支援をおこない、学習内容の定着と向上を図る。
- ⑤定期テスト前や長期休業期間において、補充的な課外学習の時間(学習相談)を設定する。
- ⑥生徒の通学時の負担軽減を目指した取組を継続すると同時に、家庭学習に向けてノートづくりの指導、自主的な学習についての指導を充実させ、習慣化できる取組を行う。
- ⑦年度当初より全校一斉に「朝読書」に取り組む。
(読書習慣を身に付けさせるとともに、目的に応じて的確に読み取るなどの読解力を向上させる。)
- ⑧各教科で工夫しながら、学校図書館を活用した授業を充実させる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ①学校評価アンケート項目 (生徒)
 - ・教科の授業がよく分かる
 - ・家庭学習の習慣が身についている
 - ・すすんで学習に取り組んでいる
- ②学習確認プログラムや全国学力学習状況調査での経年変化やアンケート内容の分析
 - 学習確認プログラムの経年変化
 - 全国学力・学習状況調査のアンケートの分析
 - ・家で自分で計画を立てて勉強をしていますか
 - ・1日当たりの勉強時間や読書時間
- ③運営委員会を中心とする各部会(主に研究部)での報告と分析
 - 生徒の話す、聞く態度の変容を観察
 - 学校評価アンケート項目 (教職員)
 - ・基礎、基本の徹底を図り、生徒一人一人の学力伸長を目指した授業を展開している 他

中間評価

各種指標結果

- ①学校評価アンケート項目
 - ・「教科の授業がよく分かる」；全教科平均 80.8 P (前年度同時期 86.3 P)
 - ・「家庭学習の習慣が身についている」；68.2 P (前年度同時期 71.9 P)
 - ・「すすんで学習に取り組んでいる」；78.3 P (前年度同時期 82.2 P)
- ②学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査での経年変化やアンケート内容の分析
 - 学習確認プログラムの経年変化 (1年ジョイントから)
3年生は、106→102→106→105→107→103→105 と推移
2年生は、101→105→104→103 と推移
 - 全国学力・学習状況調査の経年変化及びアンケートの分析⇒中止のため、分析できず。
- ③学校評価アンケート項目 (教職員)
 - ・「基礎、基本の徹底を図り、生徒一人一人の学力伸長を目指した授業を展開している」
; 1_そう思う 46.7 P, 2_大体そう思う 53.3 P

自己評価	分析（成果と課題）
	①学校評価アンケートより <ul style="list-style-type: none"> 「教科の授業がよくわかる」について、前年度より 5.5 P 下降し、平均で 80.8 P となった。特に、実技教科が大きく下降している。これについては、新型コロナウイルス感染症予防のために、作業や実習ができなかったことが影響していると考える。5教科については、昨年度より上昇しており、引き続き高い理解度を示しているので、今後とも継続して取組を進めていきたい。また、学年や教科によってばらつきが大きく、低い教科や学年があったり、学年が上がるにつれて「よくわかる」が大きく減少したりする傾向は例年と変わらず、丁寧な分析を必要としていると考える。 「家庭学習の習慣」については、やや下降したものの、一昨年よりは 5P 上昇していて、休業期間中の学習に取り組む姿勢は良好であったと考える。また、「すすんで学習に取り組めている」も同様の傾向が見て取れる。一方、1・3年生は高い数値を保っているのに対し、2年生が極端に落ち込んでいる傾向にあり、2年生が中だるみと言われる兆候が現れていると見られ、配慮が必要となっている。
	②確プロの分析より <ul style="list-style-type: none"> 確プロの経年変化を見ていくと、常に平均は上回っており、少しずつではあるが上昇傾向が読み取れる。ただし、領域別の正答率にばらつきが大きく、得手不得手の差が激しい傾向にあり、単に覚えるのではなく理解して活用する力を伸ばしていく必要があると考える。 学調については、今年度中止となつたが、来年度に向けて、「少人数グループ」の授業形態の取組を進め「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指したい。
	③運営委員会を中心とする各部会（主に研究部）での報告と分析 <ul style="list-style-type: none"> 学習面・生活面共に一般的な中学生としてほぼ良好な様子である。 自分で考え、自分から取り組むこと、自分の考えがうまく伝わるようにいろいろな工夫することなど「自主性」と「つながり力」を育てることが課題の一つである。 教職員の学校評価アンケートから概ね良好な状態であることが見て取れるが、生徒との認識には幾分差があるようにも感じられ、今後ますます精進する必要があると考える。
	分析を踏まえた取組の改善
④授業を通して自ら学びに向かう力を育み、身に付けさせるための取組として、授業改善の視点から、本校が継続して取り組んできた「少人数グループ」での学習活動をさらに推進する。 <ul style="list-style-type: none"> 「本時の目当て」「授業の振り返り」に加えて、「授業の流れ」を明示することを徹底し、全教科で実践する。 少人数グループでのより積極的な「教え合い」活動の取組と指導方法を研究する。 学習確認プログラム等の結果をさらに詳細に分析し、本校生徒の課題を明確にして全教職員が共有する。 「未来スタディサポート教室」や学習相談、土曜講座を積極的に実施すると共に、「朝読書」の全校での取組の継続や学校図書館を活用した授業を充実させる。 	
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
①学校評価アンケート項目（生徒） ②学習確認プログラムの経年変化やアンケート内容の分析 ③運営委員会を中心とする各部会（主に研究部）での報告と分析 ○生徒の話す、聞く態度の変容を観察	

	○学校評価アンケート項目（教職員）
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月の休業期間もあり、学習の進度を心配する保護者も多かったと思う。しかも授業参観も中止となり、それを確かめる機会もないのが現状である。ほとんど進度は追いついてきており、年度内にすべての教育課程が終了するとの報告を聞いて安心した。 ・子どもたちにとっても、充分な対話ができない状況での学習ということで、大きなストレスがあったのではないか。細かな配慮を続けて欲しい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
① 学校評価アンケート項目	<ul style="list-style-type: none"> ・「教科の授業がよく分かる」；全教科平均 84.7 P (前年度同時期 86.0 P) ・「家庭学習の習慣が身についている」；72.2 P (前年度同時期 67.9 P) ・「すすんで学習に取り組んでいる」；81.0 P (前年度同時期 80.5 P)
② 学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査での経年変化やアンケート内容の分析	<p>○学習確認プログラムの経年変化 (1年ジョイントから)</p> <p>3年生は、106→102→106→105→107→103→105→105 と推移</p> <p>2年生は、101→105→104→103→101→ と推移</p>
③ 学校評価アンケート項目（教職員）	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎、基本の徹底を図り、生徒一人一人の学力伸長を目指した授業を展開している」 ；1_そう思う 37.5 P, 2_大体そう思う 62.5 P
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>① 学校評価アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教科の授業がよくわかる」について、中間評価より 3.9 P 上昇した。2期以降では、通常の授業体形に戻り、学習にも意欲的に取り組めるようになった結果だと考える。大きく下降した実技教科の理解度も盛り返すことが出来た。5教科については、ほぼ平年と変わりなく、高い理解度を示しているので、今後とも継続して取組を進めていきたい。また、学年や教科によってばらつきが大きく、低い教科や学年があったり、学年が上がるにつれて「よくわかる」が大きく減少したりする傾向も同様に見られることから、丁寧な分析をしていきたい。 ・「家庭学習の習慣」については、やや上昇したものの、休業期間中の学習を家庭学習と捉えている生徒も多く、計画的・自主的に取り組む姿勢が構築されるまでには至っていない。また、「すすんで学習に取り組めている」も同様の傾向が見て取れる反面、1・3年生は高い数値を保っているのに対し、2年生が極端に落ち込んでいいて、今年度も2年生が中だるみと言われる兆候は相変わらずで、今後の配慮が必要となっている。 <p>② 確プロの分析より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確プロの経年変化を見ていくと、常に平均は上回っており、少しずつではあるが上昇傾向が読み取れる。ただし、領域別の正答率にばらつきが大きく、得手不得手の差が激しい傾向にあり、単に覚えるのではなく理解して活用する力を伸ばしていく必要があると考える。 <p>③ 運営委員会を中心とする各部会（主に研究部）での報告と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習面・生活面共に一般的な中学生としてほぼ良好な様子である。 ・自分で考え、自分から取り組むこと、自分の考えがうまく伝わるようにいろいろな工夫をする

	<p>ことなど「自主性」と「つながり力」を育てることが課題の一つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の学校評価アンケートから概ね良好な状態であることが見て取れるが、自信をもって「そういう思う」と回答できるようになることが目標である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>◎授業を通して自ら学びに向かう力を育み、身に付けさせるための取組として、授業改善の視点から、本校が継続して取り組んできた「少人数グループ」での学習活動をさらに推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本時の目当て」「授業の流れ」「授業の振り返り」を明示することを徹底し、全教科で実践する。 ・少人数グループでのより積極的な「教え合い」活動の取組と指導方法を研究する。 ・学習確認プログラム等の結果をさらに詳細に分析し、本校生徒の課題を明確にして全教職員が共有して、授業改善に取り組む。 ・「未来スタディサポート教室」や学習相談、土曜講座を積極的に実施すると共に、「朝読書」の全校での取組の継続や学校図書館を活用した授業を充実させる。
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のアンケート結果が軒並み好転しているのは、休校期間が明け、学校生活が平常に戻ったことが理由だと考えていいのではないか。安心して学校生活を送っている様子が見て取れる。 ・学校行事の縮小や中止などで実際に子供の様子を見る機会がほとんどなくなってしまったのは残念ではあるが、今は我慢の時と自らにも言い聞かせている。早くコロナが落ち着いて、これまでのように学校行事への参加ができる事を願っている。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>人権尊重の精神を基盤に据え、生徒の「豊かな人間性」の育成を図る。</p> <p>具体的な取組</p> <p>①生徒会活動を中心とした「朝の挨拶運動」や「生活点検活動」など、<u>生徒が主体となる活動を活性化させ、自己肯定感を高め、互いが「つながる」ことの大切さを知り、高め合う集団づくりを推進する。</u></p> <p>②いじめの根絶を目指し、早期発見、速やかな対応を心掛ける。いじめアンケート、クラスマネージメントシートの有効な活用を推進する。</p> <p>③学校行事や学級での活動を軸に、不調生徒に対する全教職員の共通理解のもと、人間関係の構築に努める。また、関係機関や外部支援団体との連携も視野に入れながら、<u>一人一人を徹底的に大切にする取組を継続的に進める。</u></p> <p>④道徳主任・道徳推進教師を中心として<u>指導内容を系統的に整理し、年間を見通した教科書の題材の配置や他教科との横断的連携などをさらに進め、具体的な評価実践を行う。</u></p> <p>⑤職場体験学習、ボランティア活動、部活動などの体験的な活動を通して、良好な人間関係を築ける力他者と「つながる力」を身に付けさせる。</p> <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>①学校評価アンケート項目（生徒・保護者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめを許さない仲間づくりができている ・自分を大切にしている ・人を大切にしている ・仲間の良いところを見つけようとしている ・学校の約束事や決まりを守っている <p>②学習確認プログラムや全国学力学習状況調査のアンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の規則を守っていますか ・近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか ・清掃活動や係活動をきちんとしていますか ・人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか
--	--

③運営委員会を中心とする各部会（主に生徒指導部）での報告と分析

○生徒の学校生活における態度や言動を観察

○学校評価アンケート項目（教職員）

- ・いじめや差別を許さない集団づくりの推進や人権尊重を基盤とした人権教育を行っている 他

中間評価

各種指標結果

①学校評価アンケート項目

- ・いじめを許さない仲間づくりができている（生徒）；(1&2) 95.6 P（前年度同時期 94.6 P）
- ・自分を大切にしている（生徒）；(1&2) 87.2 P（前年度同時期 90.5 P）
- ・人を大切にしている（生徒）；(1&2) 98.3 P（前年度同時期 96.4 P）
- ・仲間の良いところを見つけようとしている；(1&2) 91.0 P（前年度同時期 92.8 P）
- ・学校の約束事や決まりを守っている；(1&2) 95.4 P（前年度同時期 98.1 P）

②全国学力学習状況調査でのアンケート結果⇒中止のため分析できず

③学校評価の教職員アンケートの分析より

- ・いじめや差別を許さない集団づくりの推進や人権尊重を基盤とした人権教育を行っている。
；1_そう思う 66.7 P, 2_大体そう思う 33.3 P
- ・命を大切にし、人を思いやる豊かな感性を育て、学校教育全体を通じて道徳教育を行っている。
；1_そう思う 71.0 P, 2_大体そう思う 29.0 P

自己評価

分析（成果と課題）

① 学校評価アンケートより

- ・指標とした5つの項目のうち4項目で90Pを超える高い水準をキープしている。特に、「人を大切にしている」「仲間の良いところを見つけようとしている」「学校の約束事や決まりを守っている」については、95Pを超えており、これまでの指導が活きていていると感じる反面、頭では分かっていても、行動が伴わないことから生じるトラブルもあり、今後も地道な指導の継続が必要と考える。
- ・「自分を大切にしている」「仲間の良いところを見つけようとしている」「学校の約束事や決まりを守っている」の指標については、昨年度をやや下回っており、新型コロナによる休校期間が友達とのコミュニケーションを形成する上で、微妙に影響を及ぼしたと考える。
- ・「学校の約束事や決まりを守っている」の95.4Pをみても生徒の学校生活が安定していることを示しているが、数年間では下降傾向が見られるため、注意が必要である。

③運営委員会を中心とする各部会（主に生徒指導部）より

- ・学校祭（合唱祭・文化祭・体育祭）後の生徒アンケートや教職員の総括の分析から、規模の縮小や保護者の観覧の制限などの制約があったにもかかわらず、生徒会活動を中心とした生徒が主体となる活動の活性化に手応えを感じているものが多く見られた。学校行事や学級での活動を軸に、不調生徒に対する継続的な支援をおこなう取組も進めることができている。
- ・教職員全員が、いじめや差別を許さない集団づくり、人権尊重、命を大切にし、人を思いやる豊かな感性の育成や学校教育全体を通じて道徳教育を行うことを意識して普段の活動を行っている現状がうかがえる。しかしながら、いじめ記名式アンケートからも分かるように、いじめや差別が依然としてなくならない実態がある。他人に対する何気ない言動が「いじめ」につながり、学校へ行きたくないという気持ちが「いじめ」という言葉に現れるケースもある。実

	<p>態の把握にむけて地道な生徒とのコミュニケーション作りが大切であり、一つ一つの事象に対して前向きに取り組み、その解決に向かっていく姿勢が重要であると考える。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「豊かな人間性」の育成を図るための取組として <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてのルールやマナーの習得と規範意識の育成を意識して指導する。 ◎自他を大切にする態度を育成するための取組として <ul style="list-style-type: none"> ・自己有用感を高めるための取組として、表彰活動（掲示板やHP等）を継続する。 ・ICTを活用した西総合支援学校との交流を継続し、お互いに支え合い高め合う集団づくりをさらに推進する。 ・記名式アンケートやクラマネを積極的に活用し、教育相談等に活かしていく。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校評価アンケート項目（生徒・保護者） ②学習確認プログラムのアンケート結果 ③運営委員会を中心とする各部会（主に生徒指導部）での報告と分析 <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の学校生活における態度や言動を観察 ○学校評価アンケート項目（教職員）
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響でみんながマスクをついているので、例年と同じように「藍染の学習」に参加しても、名前と顔が一致しない。子どもたちも例年ならば、「藍染の先生」と言って挨拶をしてくれるのだが、今年は半信半疑のような表情で声をかけにくそうにしている。 ・目だけでコミュニケーションをとるのは大人でも難しい。この子たちが成長した2～3年後にどのような影響が出ているのか分からず、とても心配している。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
	<p>①学校評価の生徒アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめを許さない仲間づくりができている(生徒) ; (1&2)94.6 P (前年度同時期 91.0P) ・自分を大切にしている(生徒) ; (1&2)89.2 P (前年度同時期 90.0P) ・人を大切にしている(生徒) ; (1&2)98.1 P (前年度同時期 97.4P) ・仲間の良いところを見つけようとしている ; (1&2)92.5 P (前年度同時期 91.3P) ・学校の約束事や決まりを守っている ; (1&2)95.2 P (前年度同時期 95.5P)
	<p>学校評価の保護者アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標である「豊かな人間性」に即して、ふれあいや対話を大切にし、いじめを許さない集団づくりが行われている。; (1&2)95.4 P (前年度同時期 93.6P)
	<p>② 学習プログラムでのアンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校の規則を守っていますか」；1年生(1&2)97.4 P (京都 95.9 P) +1.5 P 2年生(1&2)98.6 P (京都 95.8 P) +2.8 P 3年生(1&2)96.3 P (京都 96.5 P) -0.2 P ・「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」；1年生(1&2)96.7 P (京都 94.3 P) +2.4 P 2年生(1&2)93.6 P (京都 94.2 P) -0.6 P 3年生(1&2)95.6 P (京都 94.5 P) +1.1 P
	<p>③学校評価の教職員アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の些細な変化を見逃さない観察・指導をし、共通理解のもとに指導に当たっている。

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	①学校評価アンケートより
	<ul style="list-style-type: none"> ・指標とした5つの項目について、4つも項目で90Pを超える高い水準をキープしている。特に、「いじめを許さない仲間づくりができている」「仲間の良いところを見つけようとしている」「学校の約束事や決まりを守っている」については、昨年より上昇した。中間評価と比べてもほぼ横ばいで自分や周りもしっかり見ることができていると思われる。ただし、学年別にみると1・2年が低い傾向にあり、頭では分かっていても、行動が伴わないことから生じるトラブルの解消など、今後も地道な指導の継続が必要と考える。 ・大枝三訓として掲げている『共生連携』『協働琢磨』の実現に向けて着実に進んでいると考える。生徒の学校生活が安定していることの一つの表れであるととらえている。この現状に満足することなく、現在の取組を継承しながら、より生徒が主体的に関わられるように生徒会を中心とした取組へと改善していきたい。
	②学習プログラムでのアンケート結果より
	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校の規則を守っていますか」「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」の項目について、全体的には、95Pを超えるなど高い数値を示している。お互いのいいところを探したり、できていることは十分に評価したりして、自己有用感の向上に努めていく必要がある。今後、主体的に学校を引っ張り、自分たちの力で行事を成功に導いたりすることで自信をつけ、自分の進路の展望をしっかりと持てるような取組を進めることが必要だと考える。
	③教職員全員が、いじめや差別を許さない集団づくり、人権尊重、命を大切にし、人を思いやる豊かな感性の育成や学校教育全体を通じて道徳教育を行うことを意識して普段の活動を行っている現状が表れている。しかしながら、いじめ記名式アンケートからも、いじめや差別が依然としてなくならない実態があることがわかっている。他人に対する何気ない言動が「いじめ」につながり、学校へ行きたくないという気持ちが「いじめ」という言葉に現れるケースも多く、今年度は1年生でこのような事案が多発した。年度当初の2ヶ月間の臨時休校が子どもたちのコミュニケーションの構築に大きな障害をもたらしたと考えられる。これからも実態の把握にむけて地道な生徒とのコミュニケーション作りが大切であり、一つ一つの事象に対して前向きに取り組み、その解決に向かっていく姿勢が重要であると考える。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒会活動を中心とした「朝の挨拶運動」や「生活点検活動」など、生徒が主体となる活動をより計画的に全校体制で取り組めるようにしたい。生徒会本部を中心とした計画的な取組を通して、互いが「つながる」ことの大切さを知り、切磋琢磨し、高め合う集団づくりを目指す。 ②不登校など不調を訴える生徒の増加が特に懸念される問題である。学校行事や学級での活動などあらゆる機会を捉えて、全教職員の共通理解のもと、一人一人を徹底的に大切にする取組を継続的に進める。関係機関や外部支援団体との連携も視野に入れておく。 ③道徳主任・道徳推進教師を中心として指導内容を系統的に整理し、教科書の活用や独自教材の開発など他教科との横断的連携などの研究をさらにすすめる。また、今年度推し進めてきた評価方法などを再点検し、より充実した道徳教育のスタイルを作っていく。 ④職場体験学習、ボランティア活動、部活動などの体験的な活動や西総合支援学校との交流の継続を通して、良好な人間関係を築ける力を身に付けさせる。その上で、社会人としてのルールやマナーの習得と規範意識の育成を意識して指導する。

	⑤自己有用感を高めるための取組として、いいとこ見つけを推奨し、表彰活動（掲示板やHP等）を継続する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分や他人を大事にしている項目やいじめや仲間についての項目が90%を超えてきていることで生徒が穏やかに学校生活を送っている様子がうかがえる。 気軽に相談できる先生がいるの項目が大きく上がっていることに安心を感じる。前期のアンケートでは例年に比べて低いように感じられたのだが、後期になって回復しているようだ。休校期間の影響はこういうところにも表れているのではないだろうか。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	基本的な生活習慣の確立、スポーツや部活動を通して社会規範や健康な心身を培う。
具体的な取組	<p>①校外の様々な人的資源や機会を有効に活用し、学年毎にケータイ教室・非行防止教室・薬物乱用防止教室などの啓発事業を効果的に設定することで、自己判断力や危険回避能力を高めると共に保健指導や健康教育指導を充実させる。</p> <p>②京都市部活動ガイドラインを遵守しつつ、体力の増進と健康維持を図るために部活動を活性化する。</p> <p>③朝の健康観察や自己チェックシートを活用し、基本的生活習慣に関する自己健康管理能力を養う。</p> <p>④登下校時（自転車登校等）や日常の生活実態を十分に把握し、安全指導の徹底を図る。</p> <p>⑤保健だよりや食教育だよりなどを活用して、食教育指導の充実を図る。</p>
(取組結果を検証する) 各種指標	<p>①学校評価アンケート項目（生徒・教職員）</p> <ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活ができているか 時間通りに登校でき、ベル着を守るなど時間を大切にしている <p>②各種体力調査結果の分析（「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」、「新体力テスト」等）</p> <p>③生徒の学校生活における状況を保健室と連携して観察</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の健康に対する意識や安全教育に対する態度や言動を観察 学校評価アンケート項目（教職員） <ul style="list-style-type: none"> 運動、体力調査を活用し、生涯スポーツ、体力の向上の活動を推進している 他

中間評価

各種指標結果	
①学校評価アンケート項目（生徒）	<p>「規則正しい生活ができている」（生徒）74.2P（前年同時期 76.0P）</p> <p>「ベル着を守るなど時間を大切にしている」（生徒）91.6P（前年同時期 94.1P）</p>
②京都市新体力テスト調査結果の分析⇒実施が遅れているため、後期へ。	
③学校評価アンケート項目（教職員）	<p>「運動、体力調査を活用し、生涯スポーツ・体力の向上の活動を推進している」</p> <p>; 1_そう思う 35.5P, 2_大体そう思う 58.1P (前年度同時期 16.8P・83.2P)</p> <p>「心身の成長や健康の保持増進のため食教育を進めている」</p> <p>; 1_そう思う 19.4P, 2_大体そう思う 54.8P (前年度同時期 24.0P・60.0P)</p>
自 分析（成果と課題）	

自己評価	<p>①学校評価アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「規則正しい生活ができている」が 74.2P で、昨年より 2P 下降した。昨年は 2P 上昇したが、最近 5 年間で 10P 近く減少している。生徒は「早寝・早起き・朝ご飯」といわれる習慣をベースに規則正しい生活を捉えていると考えられるが、寝る時間や起きる時間が不規則なことや朝ご飯を食べない時もあることなどから、出来ていないととらえていると考える。2ヶ月間の休業期間は、生徒の基本的な生活習慣に多大な影響を与えたと考える。学校が再開されてもその頃からの不調を引きずり登校しづらい生徒が増えている。最近の傾向として学年が上がるに連れて出来ている割合が減少していたのだが、今年は逆の傾向があり、1年生への指導が必要な状態になっている。 ・「ベル着を守るなど時間を大切にしている」は、91.6P と前年より 2.5P 減少している。意識としてはとても高く、決して時間にルーズなわけではないが、この項目も 1年生が 91.4P と最も低くなってしまっており、習慣付けが今後の課題であると考える。 ・教職員アンケートでは、体力調査の活用や食教育については、肯定的に捉える意見が多い反面、不十分さを指摘する意見もあり、課題があると感じられる。 <p>③保健室と連携して観察した結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校では、大枝小学区の生徒に対して自転車通学を認めているが、例年、自転車運転時のケガや事故、さらには地域住民の方々への迷惑行為がみられる。急な坂道が多い地理的条件もあり、今年度も 4 月当初に自転車運転学習会を外部から講師をお招きして実施する予定であったが、11月によく実施できた。休業期間も含め、地域からの苦情もまだ多く課題があると思われる。 ・今年度はけがが大きく減少している。休業期間が 2 ヶ月に及んだ影響もあるが、昨年に比べ、ねんざや骨折などの重大なけがも減少した。しかし、単に運動する時間や機会が減っただけで、これまでの課題である「生徒の成長過程で、当然身についていくはずのバランス感覚や危険予知力の低下」が改善されたわけではなく、今後も取組が必要である。
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の健康観察や自己チェックシートをさらに活用し、基本的生活習慣に関する自己健康管理能力を養う。また、委員会活動等を利用した啓発活動を行う。 ・登下校時（自転車登校等）や日常の生活実態を地域の方々のご支援を受けながら、現状の把握に努め、さらに安全指導の徹底を図る。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学校評価アンケート項目（「規則正しい生活ができるか」・「時間を大切にしているか」等） ②各種体力調査結果の分析（運動習慣等調査、「新体力テスト」等） ③生徒の学校生活における状況を保健室と連携して観察 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ対策で毎日の健康チェックや消毒作業、マスクの着用や手洗いの指導など先生方のご苦労が伝わってくる。 ・長期間の学校休業もあり、子どもたちに生活習慣がきちんと定着していないことも理解できるが、この対策がいつ終わるかわからない現状では、将来において悪影響を及ぼすことがないように指導していただきたい。

(中間評価時に設定した) 各種指標結果		
① 学校評価アンケート項目(生徒)	<p>「規則正しい生活ができている」(生徒)77.8P (前年同時期 75.8P)</p> <p>「ベル着を守るなど時間を大切にしている」(生徒)91.6P (前年同時期 94.5P)</p> <p>「安全に気をつけた行動がとれている」(生徒)89.4P (今年度新設)</p>	
② 「京都市新体力テスト調査」(京都市平均との比較)より	<p>男子 ; 体力合計点(+3.7P)</p> <p>Best3 ; <1>上体起こし(+9.1P) <2>反復横とび(+4.0P) <3>立ち幅とび(+3.3P) Worst3 ; <1>握力(-0.9P) <2>長座体前屈(-0.7P) <3>20m シャトルラン(+2.3P)</p> <p>女子 ; 体力合計点(+4.4P)</p> <p>Best3 ; <1>上体起こし(+7.4P) <2>50m 走(+4.6P) <3>反復横とび(+4.2P) Worst3 ; <1>握力(-2.0P) <2>長座体前屈(-0.2P) <3>立ち幅とび(+3.1P)</p>	
③学校評価アンケート項目(教職員)	<p>「運動、体力調査を活用し、生涯スポーツ・体力の向上の活動を推進している」 ；1_そう思う 31.3P, 2_大体そう思う 65.6P(前年度同時期 18.8P・68.8P)</p> <p>「心身の成長や健康の保持増進のため食教育を進めている」 ；1_そう思う 19.4P, 2_大体そう思う 54.8P(前年度同時期 6.3P・71.9P)</p>	
自己評価	<table border="1"> <tr> <td>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題</td></tr> </table> <p>①学校評価アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「規則正しい生活ができている」が 77.8P と前年同期より 2.0P、前期より 3.6P 増加した。4・5 月の学校休業期間の影響が大きく、前期ではその影響を引きづっている生徒が多く見られたのが、ここにきてようやく元のペースに戻りつつあると考える。 ・「時間通りに登校でき、ベル着を守るなど時間を大切にしている」の項目が 91.6P で昨年同時期より 2.9P 減少し、前期とは同じであった。一度狂ったペースを元に戻すのには、かなりの時間が必要であり、また、SNS 等の利用によって「早寝」ができるない現状も不登校や体調不良と関わって大きな課題があると考える。 ・「安全に気をつけた行動がとれている」という項目を今年度後期より新設した。ここ数年、通学途中や放課後に自転車の自己が多発しており、休み時間等でのけがの多さも大きな課題となっていたためである。こちらが考えるより子どもたちは安全に気を付けているとの回答が多かったが、今後もこの質問を継続し、日々の安全教育に力を入れていきたい。 <p>②「京都市新体力テスト調査」より京都市平均と比較して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子は、合計点で京都市平均を 3.7P 上回り、種目別では、8 種目中 6 種目で平均を超えていた。しかし、握力と長座体前屈では平均をやや下回っていた。特に握力については 3 学年とも平均以下であった。2・3 年は握力以外すべて平均以上であったが、1 年生は、さらに長座体前屈と 20m シャトルランも平均を 3P 以上下回っていた。 ・女子も、合計点で京都市平均を 4.4P 上回り、種目別では、8 種目中 6 種目で平均を超えていた。しかし、長座体前屈ではほぼ平均に近かったものの、握力については 3 学年とも平均以下であった。握力以外では、1 年の長座体前屈と 3 年の反復横とびで平均を下回っていた。男女とも握力に大きな課題をおり、今後の取組に工夫を要すると考える。 <p>③学校評価アンケート項目(教職員)より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の観察・指導・共通理解」「不登校支援」については、全教職員が「よくできている・ 	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題
分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題		

	<p>だいたいできている」に丸を付けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食教育については、前回に比べ7P上昇したが、依然19%の低評価がある。ただ、今年は委員会から毎月発行される「食教育に関するチラシ」等を積極的に活用するように働きかけ、広報活動にも意欲的に取り組んできた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ①朝の健康観察や自己チェックシートをさらに活用し、基本的生活習慣に関する自己健康管理能力を養う。特に「早寝・早起き・朝ご飯」の取組を全校体制で進めていく。 ②登下校時（自転車登校等）や日常の生活での交通安全指導を徹底し、自転車安全教室も全校生徒を対象としたものにしていく。 ③運動、体力調査を活用し、生涯スポーツ・体力の向上の活動を推進していくためにも、新体力テストの結果を分析し、特に握力の向上を図る取組を具体的に提案する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS等でのトラブルが多発しているようだが、学校で実践された指導については報告を受けたが、各家庭で具体的にどのようなことに配慮すればいいのか。また、トラブルが発生した時、家庭としてどのように対処していいのかわからないことが多いのではないか。 ・学校の立地条件から、下校時にはかなりのスピードが出てしまう。地域としても注意喚起を行っていきたいので、学校でも注意喚起を継続して欲しい。

(4) 学校独自の取組

	<p>重点目標</p> <p>9年間を通して「自らすすんで学び、自分も友達も大切にする子ども」を育成する。</p> <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大枝ブロック小中「学びのガイドライン」の徹底と継続的な見直しを行う。 ②小中連携事業の拡充（部活見学会の実施・入学者説明会での生徒活動など）を行う。 ③夏季合同研修会の内容を充実する。 ④道徳教育の小中連携を一層推進し、義務教育9年間を見通した題材の配置や評価の実践を進めると共に、合同研修会、公開授業を通して、その内容の見直しを行う。 ⑤生き方探究パスポート等を活用し、発達段階に応じて、児童生徒と対話的に関わる中で、9年間を見通して、学習状況やキャリア形成について系統的な指導を行う。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大枝ブロック各校における教職員のアンケート ②大枝ブロック合同部会（校長会・教務部会・研究部会・生徒指導部会）での報告と分析
--	---

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大枝ブロック夏季合同研修会⇒本年度は中止 ②大枝ブロック合同部会（校長会・教務部会・研究部会・生徒指導部会）は校長会1回に留まったが、電話やメールでの情報交換は頻繁に行った。また、事務によるブロック会議は6回開催できた。
自己評	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①これまで取り組んできた小中「学びのガイドライン」の点検や見直しを通して、大枝ブロックにおける「学びの継続性」を推進するための枠組み（システムづくり）が重要であることを再確認

価 値	<p>することもできた。</p> <p>②大枝ブロック合同部会（校長会・教務部会・研究部会・生徒指導部会）では、新型コロナ感染症対策について各校の取組や状況を頻繁に情報交換できた。</p> <p>校長会では『9年間で子どもたちに付けたい資質や能力』として具現化に向けた取組の検討や構想図の再検討を進めていくことを確認した。</p> <p>事務のブロック会議では、校長事務引継を控えていた中で、幅広い業務で相互点検を行えたことが安心にもつながった。改めて相互点検作業を行うことで、処理方法などの詳細な部分まで確認することができ、曖昧になっていた知識を正しく理解しなおすことができた。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大枝ブロックで作成している「学びのガイドライン」を見直して、今後とも9年間を見通した学びの連続性をさらに進めていく。 ・小中の管理職、教務主任、研究主任、生徒指導担当者が中心となり、「育てたい資質、能力」や「共通の課題に対する改善の方向性」を明確にするために、定期的な情報交換の場を設ける。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大枝ブロック各校における学校評価教職員アンケートの情報交換 ②大枝ブロック合同部会（校長会・教務部会・研究部会・生徒指導部会）での報告と分析
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数年前より色々な会議や研修会で、「小中一貫教育」ということが言われてきたが、大枝中ではどこまで進んでいるのか、教えて欲しい。 ・小中一貫教育というと、よく校舎一体型の取組がクローズアップされるが、大枝中ブロックでは、3校で作成した「学びのガイドライン」を主として、9年間を見通して、子どもたちの学びが同じ方向を向きながら連続していくように取組を進めている。

最終評価

自己 評 価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大枝ブロック各校における学校評価教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は小中一貫の行事も実施できず、アンケートから削除した。 ②大枝ブロック合同部会（校長会・教務部会・研究部会・生徒指導部会）での報告と分析 <ul style="list-style-type: none"> ・校長会・教務部会・研究部会については、電子メールと電話にて実施した。 事務職員の学校間連携は、月1回、大枝中に集まるか、オンラインで実施した。 <p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中「学びのガイドライン」の徹底と継続的な見直しについては、「めあて」「授業の流れ」「振り返り」の明示を具体的に実践したが、小中統一したものにはなっていない。今後、全教職員が共通理解、再確認して、9年間を見通した学びの連続性をさらに進めていきたい。 ・小中の管理職、教務主任、研究主任、生徒指導担当者が中心となり、「育てたい資質、能力」や「共通の課題に対する改善の方向性」を明確にするために、定期的な情報交換の場を設ける。 具体的には、今年度中止となった夏季合同研修会を実施することや新たなテーマを設定して、それぞれの学校で検証を行い、夏季合同研修でより具体的な報告ができるようにしたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びのガイドライン」の見直しと小中における共通理解の上に立った実践を行う。 ・体験授業や部活動見学、生徒会交流など移動する回数を少なくし、安全面や効率の面でも改善さ
--------------	---

	<p>れた小中合同行事を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・G I G Aスクールや新しい評価・評定など小中が共に取り組んでいるテーマについて、小中ブロックとして、道徳主任会（道徳推進教師）、研究主任会、教務主任会、校長会それぞれが相互に連携をとりながら、実践していく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大枝中、大枝小、桂坂小で小中一貫や小々連携をさらに進めていって欲しい。将来を見据えて、より活発な地域、社会を作り上げるような児童、生徒に育って欲しい。そのためにどのような協力が出来るのか、学校運営協議会のあり方も含めて今後検討していきたい。

（5）教職員の働き方改革について

重点目標

教職員一人一人が勤務時間を意識したより効率的な働き方に向けて取組を推進し、教職員がいきいきとした姿で子どもと向き合えるように時間を確保する。

具体的な取組

- ・学校行事を精選し、校務等の負担が一時期に重なることや特定の者にかかることのないようにする。
- ・会議を精選、効率化する。議案の事前配布や運営委員会での徹底した審議を行う。
- ・電話応対時間を午後7時までとし、以降は留守番電話に切り替える。
- ・働き方改革に関する研修を行い、部活動を含めて、月45時間、年間360時間の上限を順守できる方策を自らのこととして考え、実行できるようにする。

（取組結果を検証する）各種指標

①教職員の勤務時間

- 超過勤務月45時間、年間360時間以内の目標達成を目指し、月途中にも随時、点検を行う。
- 月80時間越えの教員ゼロにする。
- 年休の取得率の向上（目標16日以上）を目指す。

中間評価

各種指標結果

① 時間外勤務チェックシート（調査対象31名・4～9月）の分析

- ・80時間超；1名、100時間以上；0名
- ・全平均；19時間51分→7時間40分→38時間59分→43時間6分→19時間44分→46時間31分
- ・平均月45時間以下；27名（達成率87.1P）、半年間計175時間以下；14名（達成率45.2P）

自己評価

分析（成果と課題）

① 時間外勤務チェックシートより

- ・新型コロナウイルス感染症予防のための休業措置が2ヶ月間実施されたこともあり、当然と言えば当然ではあるが、超過勤務時間は驚異的に改善されている。80時間を超えた者が7月に1名いただけで、時間外勤務削減に対する意識が定着してきたと言えるのではないか。月平均45時間以下のものがほとんどではあるが、後期に入り増加することは目に見えており、ノーカンクダーデーの定着や管理職からの声掛けを引き続き行っていきたい。
- ・今年に限っては、目標としている月45時間については、半数くらい達成できるかもしれないが、これを継続していくのは、まだまだ難しい現状があると考える。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の精選及び校務の負担が一時期に重なることや特定の者にかからないようにする。 ・会議を精選、効率化する。議案の事前配布や運営委員会での徹底した審議を行う。 ・電話応対時間を午後7時までとし、以降は留守番電話に切り替える。 ・働き方改革に関する研修を行い、自らのことと捉える。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教職員の勤務時間 <ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務月45時間年間360時間目標とし、月途中での点検を行い、周知徹底する。 ②年休取得率 <ul style="list-style-type: none"> ・年休の取得率の向上を目指す。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休校期間の影響から、超過勤務時間が減少したり、年休の取得率が上昇したりしていることはわかった。ただし、この傾向は一時的なものであり、今後を見通していくと継続できるわけではない。新型コロナの状況によっては、さらに先生方の勤務状態が悪化するかもしれない。十分にご配慮いただき、子どもたちのために頑張っていただきたい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ol style="list-style-type: none"> ①時間外勤務チェックシート（調査対象31名・10～2月）の分析 <ul style="list-style-type: none"> ・45時間超；のべ63名、80時間超；0名、100時間以上；0名 ・全平均；48時間31分→41時間4分→37時間32分→36時間17分→38時間38分 ・月平均45時間以下；12名（達成率38.7P） ・月平均30時間以下（年間350時間以下）；10名（達成率32.3P） ②年休取得時数（調査対象31名・4月～2月）の分析 <ul style="list-style-type: none"> ・平均年休取得時数；1人あたり11日7時間 ・年休取得率；59.4%
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> ①時間外勤務チェックシートより <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に時間外勤務削減に対する意識が定着してきた。10月以降、80時間を超えた者は0名年間で1名であった。平均も明らかに減少傾向にあり、ここ3か月連続で40時間を切っている。年間を通してみると、9月と10月の学校行事が集中した時期でも50時間は越えなかつた。ノーリラダードーの定着や管理職からの声掛けの励行が効果を現しているのではないか。 ・一方、目標としている月45時間以下については、6割以上が達成できていない現状である。年間360時間についても同様であるが、まずは、月45時間6か月超の7名については働き方改革の方針に則って、問題意識を持って取り組んでいくように話をしていく。 ②年休取得時数 <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の年休取得時数は、平均で1人あたり11日7時間であった。年休が20日と考える取得率は、59.4%となる。今年度は緊急事態宣言による学校休業もあり、これまでと同じように考えることはできないが、年休取得推奨日の設定や在宅勤務などの対策を講じたことにより、取得時数も俗化したと考える。来年度以降もその向上を目指し、取得可能な時期や時間を見ながら、声掛けをするなど、より実効性のある方法を検討していきたい。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の精選及び校務の負担が一時期に重なることや特定の者にかからないようにする。 ・会議を精選、効率化する。議案の事前配布や運営委員会での徹底した審議を行う。 ・電話応対時間を午後7時までとし、以降は留守番電話に切り替える。 ・働き方改革に関する研修を行い、部活動を含めて、月45時間、年間360時間の上限を順守できる方策を自らのこととして考え、実行できるようにする。 ・年休取得時数を増やすために、効果的な声掛けなどを行い推奨していく。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス対策で先生方が疲弊されているのではないか。 消毒作業やマスク手洗いの指導などとても大変であったと思われる。 ・お手伝いできることができれば、遠慮なくいって欲しい。協力したい。